

▶ライトアップした石段の前で
実行委員の皆さんと



9月23日は、国連が定めた「手話言語の国際デー」です。この日、世界ろう連盟が実施する「ブルーライト・チャレンジ」に合わせた催し



が、渋川市聴覚障害者福祉協会などの団体で組織する実行委員会により、渋川市でも実施されました。

夕方、伊香保温泉だんだん広場に関係者が集まってカウントダウンをし、点灯式を行いました。会場には、観光客も含めて多くの人が集まり、日没とともに徐々に鮮やかなブルーに染まっていく石段を眺めながら、時折手話を交えて笑顔で語り合っていました。私も手話仲間に助けをもらいながら、楽しいひとときを過ごしました。

伊香保温泉は、全日本ろうあ連盟が結成された地として、聴覚に障害がある人の聖地となっています。また、バリアフリーガイドマップや手話で巡る伊香保温泉マップも作成されていて、さまざまな障害のある人たちに優しい温泉地です。

猛暑が過ぎ去り、「小さい秋」を感じながら、石段のブルーライトを見上げてみました。青い光の道は、まるで、誰一人取り残さない「共生社会実現のまち渋川市」の道しるべのように見えました。

渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館 (TEL 253215)

美術の小窓

《静音》
牧信成 作
1992年
縦45.5cm×横53.0cm
素材：和紙、岩絵の具、
にかわ



牧信成(1924-2016)は、渋川生まれの日本画家です。著名な日本画家・奥村土牛(1889-1990)に師事し、日本美術院に所属して中央画壇で活躍しました。

岩場の木が青々と茂る風景に《静音》という題名を見ると、「閑さや岩にしみ入る蟬の声」と山形の立石寺で詠まれたという芭蕉の句が思い浮かびます。不思議なのが「静音」という言葉です。「静か」なら音がしないはずですが…「静穏」や「清音」という言葉はあっても、「静音」はありません。透き通るような木々の表現と、手前の右側に描かれた“あずまや”と“のろし”が、あえて《静音》と題した作家の思惑を感じさせます。

この作品は、10月26日(木)まで市役所第二庁舎1階回廊の北東の壁面で展示しています。

●市美術館は、移転のため休館しています

地域おこし
協力隊

長沼隊員の
おすすめスポット
— Vol.31 —



こんにちは！今回ご紹介するのはこちら。ひするまキャンプ場のすぐ近く、利根川の川辺から撮った1枚です。

よく見ると右側の木の中に鉄骨が見えると思います。これは市内から棚下へ向かう際に出現するトンネルです。私はこのトンネルを通る度、外側から見たらどうなっているんだろうと疑問に思っていました…こんな風に岩の中に造られていたんですね。面白い！ここへは利根川沿いが遊歩道になっているので歩いて行くことができます！



▲協力隊の
SNSは
こちら

